



ホームページ
「中野あきと」

日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

みどりと清流

第131号

中野あきと事務所

〒191-0041 日野市南平7-6-72

TEL・FAX 042-599-3350

発行責任者 小林 進

2013年
3月発行

しん ぶん 赤旗

日刊紙1ヶ月 3400円

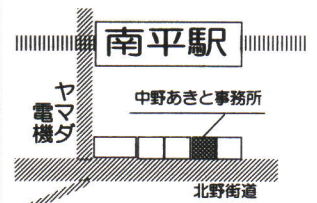
日曜版1ヶ月 800円

お申し込み 党南多摩事務所

TEL 042-374-4384

または中野事務所へ

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



可燃ごみ広域処理問題 市長は地元住民と冷静な協議を

馬場市長は、小金井市、国分寺市との可燃ごみ共同処理計画を、地元住民の合意のないまま両市と覚書を結び、環境省に「計画書」を提出しようとしています。クリーンセンター周辺地域の住民はこれに強く反対、2月28日には市役所前で抗議集会を開き、代表が市長に申し入れを行いました。

市内石田地区は、し尿処理場、ゴミ焼却場、下水処理場などが集中しています。これらは「迷惑施設」と呼ばれ、この地域はさまざま被害を被った歴史があります。これまで周辺の人たちは、日野市にとって必要な施設だからと受け入れてきました。

型焼却炉で処理するということを一方的に都や三市の話し合いで計画、周辺住民の反対をよそに短期間で押し進めようとしています。はじめて住民説明会が開かれたのは昨年11月。自治会などが反対決議をしても「ゴミ有料化のときのように、たとえ65%が反対でも信念をもって判断する」と聞く耳をもたず、市職員を戸別訪問させ「感触がよかったから」と、三市で覚書を締結し環境省へ「計画書」を提出しようとしています。



2月28日 日野市役所前
「ごみ広域化反対集会」

恣意的判断の戸別訪問結果

市の職員による戸別訪問の結果では、賛成が29.2%、反対が28.8%で賛成が上回ったと説明しています。しかし42%は、分からないなど、賛否の表明をしていません。

しかも訪問自体が一方的説明に終始。ほとんどが反対した説明会参加者は除かれているなど、きわめて恣意的な判断と言わざるを得ません。

子どもの命が守れる
学校と社会を
いじめ・体罰、「道徳」
の教科化について考える

3月議会的一般質問

いま、「いじめ」や体罰の問題が大きな社会問題となっています。悪質化していると言われる「いじめ」の背景について考えながら、大津市のいじめ事件報告書の中身も踏まえ、学校や教育委員会の取り組みに生かしてほしい「いじめ」への対応策について提案したいと思います。

また、体罰問題に対する教育委員会の基本的立場と、体罰をめぐる学校現場の実態について質したいと考えています。

政府は、いま、「いじめ」への対応策として道徳を「教科」にしようという動きを強めています。そういう力みをすれば、子どもたちはどういう反応をすることが考えられるのか。2008年に全国の教育現場で行われた「道徳テスト」の内容も紹介しながら少し分け入って考えてみたいと思います。

なお、質問概要については来月号で報告させていただきます。

中野あきと

短信

ロシアに落ちた隕石の映像にはビックリだ。高速で空を切り裂いていく光、その衝撃波は凄まじく、戦争が始まったかと思うのも無理はない▼鉄の塊のときは隕鉄という。1890年に富山で隕鉄が発見された。当時は隕鉄と気づかず、漬物石に使われたという。重さも4kgと手頃だったのだらう。榎本武揚はこの隕鉄から刀を作り、「流星刀」と名付けたという▼隕石の落下予測は難しいが、彗星の軌道は計算できる。1910年ハレー彗星接近の時はそのたなびく尾に地球が入り、5分間空気が無くなるかの噂が広がり、子供はタライに水をはり息を止める練習をしたり、自転車チェーンがものすごい高値で売れたという▼根拠のない不安や安心はデマとか神話である。原発の事故は「安全」が根拠のない安全神話であることとを証明してしまった。「これ以上の安全は不必要」と権威ある人が言っていたのである▼3.11から2年経過した。国会周辺では、「原発ゼロ」を目指す行動が今も休みなく続けられている。多くの人が思い思いの行動に参加している。静かに聞くのもよし、何かアピールするもよしである。行きましよう。(H)

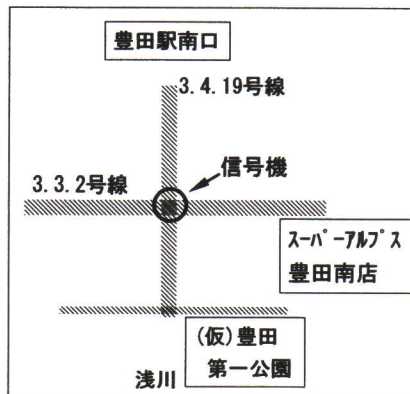
◇◇ミニ・ニュース◇◇

■「川崎街道・北野街道の整備促進を求める」陳情

前号（2月号）でお知らせした表記の陳情は、2月14日の都議会「都市整備委員会」では継続審議に、翌15日の「環境・建設委員会」では採択されました。「採択」は文字通りですが、「継続審議」では、今後の展開で「整備促進の可能性」があります。

■3.3.2号線の交差点に信号を付けてほしい

3.3.2号線（スーパーアルプス豊田南店前の道路）と3.4.19号線（豊田駅南口から浅川へ向かう道路）の交差点は、信号が無く、太い道路どうしの交差点なので事故が心配されます。要望をまとめて、市へ申し入れしようとの声が上がっています



■イゲタヤ前の右折矢印信号設置される

都道の北野街道・南平2丁目イゲタヤ前交差点に右折信号の「→」が設置され、2月18日から「稼動」しています。

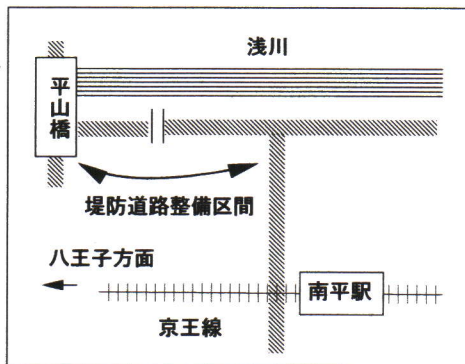
ここは自転車、歩行者と自動車の通行が多く、しかも高幡不動駅方面からの右折車が多いにもかかわらず、右折専用信号が無いために事故が懸念されていました。

市民からの要望にもとづき、中野あきと市議が日野市と警察署に「右折信号」の設置を求めているものです。



■平山橋一南平 堤防道路整備

舗装が老朽化し改修が望まれていたこの区間の道路が整備されます。



《2013年 4月の無料法律相談》
市役所6階 共産党控室 午後1時～3時
4月 11日（木）
※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

ご感想・ご意見を
お寄せ下さい。

ちかみきがはる!

ドイツ映画「見えない雲」を観て
「原発全廃」を決めたドイツとの違いは

ちかざわ美樹（都議予定候補）



新婦人という女性団体の「井戸端会議」という自然エネルギーを考えるグループが、「原発事故」をテーマにした「見えない雲」というドイツの映画の上映を行いました。1986年チェルノブイリ原発事故をきっかけに、「ドイツで放射能漏れの事故が起きたらどうなるのだろう」と、作者は映画の原作となった小説を翌年出版、ドイツだけでなく日本を含めた13ヶ国で翻訳されて多くの人たちに読まれ、ドイツ国内では原発に対する世論づくりに大きな影響を与えた作品です。

事故を知った住民がパニックになって 逃げ出すシーンが衝撃的なのですが、空想の筈の映画の場面が福島第一原発事故の現実と重なり、ドキュメンタリーのような錯覚さえ感じました。日本でこの映画が公開された2006年当時と今ではこの映画を見る意味はまったく異なるでしょう。「原発全廃」を決めたドイツと大きく異なる現在の日本の政治。歴史と目の前の事実に向き合い、深く学んで国の在り様を変えさせたドイツの人たちに習いたいと思います。

耳にタコができると言われるかもしれません。へ景気回復には内需の拡大をへ大企業の内部留保の活用をへ日本共産党が言い続けてきたことです。でも、国会の論戦で、ついに安倍首相もこのことを認めました。いくらお札を印刷して公 安倍さんも認める 共事業などに ばら撒いても、 景気はよくない 保障はないのです。何しろこの十数年来、働く人の約二か月分に相当する年収が減り続けているのですから。購買力が落ち景気が悪くなるのは当たり前です

も認める使い道のない内部留保は260兆円に膨らんでいます。この内部留保のわずか1%分を使えば、大手の会社の大半で月1万円以上の賃上げが可能なのです。 共産党の論戦で麻生さんも内部留保の活用を認め、 安倍総理も「賃上げは必要」といい、経済団体にも伝えました。でも、伝えるだけではダメです。欧州諸国のように勧告を行うなど、政治がきちんと力を発揮すること。そして中小企業への手当を講じながら、低い低い日本の最低賃金（時給・平均749円）を千円にまで引き上げることが必要です。（K）